
IS The white Track **【白の軌跡】**

御坂弟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS The White Track 【白の軌跡】

【Nコード】

N1445BA

【作者名】

御坂弟

【あらすじ】

かつてラインアークを守っていたネクスト ホワイトグリント
そしてそのパイロットは墜ちた

しかし、彼の時間は再び動き出す

愛機 ホワイトグリントと共に、

・・・ISという兵器により歪んでしまった世界のなかで・・・

設定（前書き）

ああ、また初めてしまった
まだ他の奴書き終えてないのに・・・

設定

ライカ・ヴァーデル

首まで届く銀髪で金色の瞳、背は高めでかなりのイケメン

好きなもの 甘いもの、音楽、ギター、独創的な考えの人など

嫌いなもの 苦いもの、虫、魚など

かつて国家解体戦争に参加した、元レイブン

戦争で重症を負うが、フィオナに救われる

数年後、アナトリアの為、再び戦いに身を投じる

そして更に数十年後ラインアークの防衛時に

ナンバー1ステイシスとナンバー17フラジールに墜とされる

ホワイト・グリント

天才アーキテクトにより開発されたワンオフ機

かつての世界においてラインアークが企業に対立出来ていた

最大の理由

一機で企業を潰せるほどの性能を持っている

また、ライカも傭兵として最強クラスの力を有している為

この組み合わせは最強だと言える

単一能力『ライトニング・オーバード』

雷の様に目にも止まらぬ速さで動けるようになる

また、一瞬で武器を切り替える『イグニッション・スイッチ』を

使えるようになる

待機状態 白い十字架のついたブレスレット

設定（後書き）

この小説内では4の主人公とフォーアンサーのホワイトグリントの搭乗者を

同一人物にしています

あと、イグニッション・スイッチはラピッドスイッチよりも早いです

また、誤字や、これ違っんじゃないかね？ってのがあったら

ご指摘お願いします

墜ちた白（前書き）

他の作品も随時更新していくので宜しくです

この作品は最近 a c f a をやり始めたので、衝動的に書き始めちゃ
いました

てへっ！ きもいつ！

墜ちた白

ラインアーク 本拠地

「ホワイト・グリント、出る」

俺は何時ものようにラインアークに襲撃を駆けて来る企業の連中を排除するためカタパルトを出す

『敵ネクスト2機、一機はアスピナのランク17フラジール、もう一機はオーメルのランク1ステイシスです。いずれも強力な敵です、気をつけてください』

オペレータをしてきているのは、俺の命の恩人でもある
フィオナ・イエルネフェルトだ、彼女に助けられ無ければ俺は今生きていないだろう

（ステイシス、ランク1オツツダルヴァか、企業もいよいよ本気できたか）

オーバード・ブーストを使い、高速で移動していると目標が見えてきた

相手もこちらを捉えたようでブーストで飛ばしてくる

「ちっ！さすがに早いな」

二機は両方とも高い機動性能の持っている機体だ

特にフラジールに関しては装甲が紙も同然だが機動力なら明らかに最上級だ

そしてその機動力を生かし、マシンガンやチェインガンで弾をばら撒いてくる

「・・・だったら!」

俺はまずステイシスのメインブースターを狙い打ちながら高速で動き回る

そしてそこにフラジールが接近してくる

「P・A開放、アサルトアーマーを使用する」

そういうと、機体の周囲に緑の球体が展開される
そしてそれは膨大なエネルギーを周囲に放出する

『ネクスト、フラジールの撃破を確認しました』

フラジールはその装甲の薄さによって一撃で沈んだ

「・・・まずは一機」

俺は両肩の分裂ミサイルをステイシスに打ち出し、移動し始める
それは敵の付近まで行くと弾がはじけ、中から八個の小型ミサイルが出てくる

さらに両肩なので十六機のミサイルが襲い掛かる

ステイシスは大きく円を描くように動きそれをかわす

「さすがは天才ボウヤだ、

「・・・でも甘いぜ」

俺は既にステイシスの真正面に移動している、そして手のライフルを捨て、

格納しておいたレーザーブレードをかまえ、斬りつける

ステイシスは右肩のミサイルを打ち出してくる

俺のレーザーブレードはステイシスを腹部から真っ二つに切り裂いた
そしてステイシスのミサイルはホワイト・グリントのメインカメラ
を吹き飛ばした

「・・・終わったな」

「いえ！まだ終わってません！所属不明機体急速接近！逃げてくだ
さい！」

「なっ！？無理だ、メインカメラやられてんだ！」

最後に聞いたのは、フィオナの悲しい声だけだった

これでラインアークもしまいか

墜ちた白（後書き）

まあ、いきなりですが、ヒロインを決めたいと思うのでアンケートを取りたいと思います

1、複数が良いんじゃない？

2、やっぱり1人？

3、いらねえんじゃない？

の三つからお願いします

1、2、は誰がいいのかもお願いします

アンケート（前書き）

前の話の最後にも書きましたがヒロインについてです

rewrite of my life (前書き)

束の口調が幾らか違つかもしれません

あとアンケートは明日までなのでお急ぎを、マジで票が集まらない
です・・・

rewrite of my life

「あれ？成功しちゃった？さすが束さん、我ながら鼻が高いなあ」

ああ？誰の声だ？此処はどこだ？

「こづいうときはアレだよね、開けーゴマー！」

プシュー

暗い空間に徐々に光が入ってくる、そして目の前にいたのは・・・

「変態か？」

もう二十は過ぎたであろう、顔は良いのだが格好が問題だ、ウサミミに水色のドレス風の服、はつきり言って痛いひとだ。

「むう、失礼な人だなあ、初対面の人に向かって変態だなんて」

そうは言ってもな。

「変態か頭のおかしい人物にしか見えないが」

「大体、命の恩人にそれは無いと束さんは思うな」

「・・・はい？」

俺が生きてるのと関係が有るのか？

「いやあ、遊びで別次元の死者を呼び出すなんてやってみたら、なんと成功しちゃったんだよ
さっすが東さんだねえブイブイ」

ちっ、マッドか、この類の人物にいい思い出はないな。
さっきから気になっていたが・・・

「ホワイトグリントは何処へやったんだ？」

「んー、あのでつかいの？やっぱり君のだったんだ。君より先になんか落ちてきたよ。
ただ損傷が酷くてね」

「・・・そう」

もう、ホワイトグリントは・・・

「ISに作り変えちゃった」

はッ？

「ISってなんだ？」

「インフィニットストラトス、通称IS、この世の全ての兵器を凌駕する

性能をもつ、パワードスーツ」

ふむ

「まあ、君のホワイトグリントだっけ？アレの方が性能は良かった

けど。

危険だねあれは、あの不思議な粒子、放射線以上の汚染物質でしょ？
あんなのを兵器に使うなんて君の世界ってどんな世界？」

・・・世界ね

「まあ、そこは天才の東さんだね、そんな有毒な物質も東さんが無
害に出来る

物質を作っちゃいましたー！」

コジマを無害にするだと？

「可能なのか？」

「できたから言ってるんだよ、と言っても、君の機体にしか使えな
いけど、

駆動系とかが特殊すぎるね、全く新しい機構もあつたし」

「所で、お前は俺をどうするつもりだ？」

「どうもしないよ、東さんはアレが成功するか試しただけだし、そ
れに、

君がどのように生きるかも興味が出てきたからね」

「どう生きるかねえ」

良く知らない世界だし、そんなこと言われてもね

「まあ、決まらないならIS学園に行ってみるといいよ」

「学園？この年齢でか？」

今の俺の年齢は多分三十過ぎくらいだが

「逆に聞くけど、君の世界じゃその年齢に学校に行かないの？」

「さすがに三十じゃな」

そついつて手を見ると・・・

「・・・あれ？」

手が小さい

「ハイ、これ」

東が鏡を出してそれを見ると・・・

「若返ってる!？」

ゴツゴツしたおっさんの顔が十代の少年の顔に豹変していた

「いやー、東さんにも良く分からない所もあつたからね。それが原因かも・・・」

おいおい

「良く分からないのに使つなよ」

「でも二度目の青春を味わえるよ、いやー、よかつたね」

「いや、青春なんて味わえなかつたさ」

「じゃあ、今度こそ堪能するといいいよ」

まあ、それ以外にする事もないしな

「そうさせてもらうか」

「それじゃあ、束さんはこの『パクパクごっ君』で今日の夕飯を・・・」

そういつて取り出したのは妙にメカニカルな籠？だった

「俺も行くよ、自分の飯くらい自分で取るさ」

「それじゃあ、君の名前を教えてよ」

「ああ、俺はライカ・ヴァーデル、元傭兵だ」

「じゃあ、ラーくんって呼ぼう。じゃあ行こうか、ラーくん！」

こうして良く分からん世界に来た俺の良く分からん生活が始まった

r e w r i t e o f m y l i f e (後書き)

あだ名が神を超える者の来斗と同じなのは偶然です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1445ba/>

IS The white Track 【白の軌跡】

2012年1月6日22時46分発行